

編集後記

- ◇ 農林水産省は平成25年6月11日に、「平成24年度食料・農業・農村白書」を公表した。ばれいしょ、かんしょの生産・消費動向についても、解説されている。また、介護食品の開発事例として、「安納いも」が次のように紹介された。

『東京都世田谷区の東京中央食品(株)は、鹿児島県の種子島で生産されている安納芋を使用した介護食品向けのデザートを開発しました。この商品は、「高齢者は便秘になりやすいので繊維質が豊富な介護食品が欲しい」という介護施設の関係者の声や、「飲み込む力が低下しているが甘くておいしいデザートが食べたい」という介護食品利用者の声を受けて開発された介護食品で、安納芋の「食物繊維が豊富」、「ゆっくり加熱すると甘味が増す」という特性を活かしています。』

このように介護食品としても、サツマイモの消費用途が広がりつつあることは喜ばしいことだ。

- ◇ 一般財団法人いも類振興会では、平成25、26年度の2ヵ年間で「焼きいも事典」の発行を計画している。7月8日に企画編集委員6名の委嘱を終え、第1回焼きいも事典企画編集会議を9月4日に開催し、本格的な編集作業に入った。

発刊は平成26年度末を予定している。今後、原稿の執筆等について、各専門分野の皆様にご協力をお願いしていきたい。

- ◇ 干しいも生産の88%を占める茨城県は、平成11年3月11日の東日本大震災による東京電力福島第1原子力発電所の事故で、大きな風評被害を被った。ようやく落ち着きを取り戻しつつある状況となったので、本誌No.117の特集では、「干しいもの現状と課題」を取りあげた。

執筆は、茨城県で干しいもの各分野で振興に関わっておられる方々を主体にご協力をいただいた。厚くお礼申しあげたい。この特集が、健康・自然食品である“干しいもの再発見”につながり、その生産振興、需要拡大にも結びつくことを願っている。

- ◇ 本誌の「海外情報」欄では、夏秋啓子東京農業大学教授の企画・執筆により、「続旅の空、時々地のいも」のタイトルで連載してきた。サツマイモ、ジャガイモの海外情報にとどまらず、それぞれの国が有する文化などについても広く紹介いただき大変参考になった。この度、夏秋教授からNo.117をもっていったん休止の申し出があった。これまでの編集へのご協力・支援に対して、厚くお礼申し上げたい。

2014年1月発行の本誌No.118から、新たに「サツマイモの料理」に関する連載が始まることとなった。執筆者は、ロハスダイニング主宰の若林昌英氏である。

(狩谷 昭男)

いも類振興情報 第117号

2013(平成25)年10月15日発行

定価 1部 500円
年間購読料(季刊) 2,000円

発行 一般財団法人 いも類振興会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303
TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225

E-mail: imoshin@fancy.ocn.ne.jp

郵便振替 00130-1-110152

印刷 株式会社丸井工文社